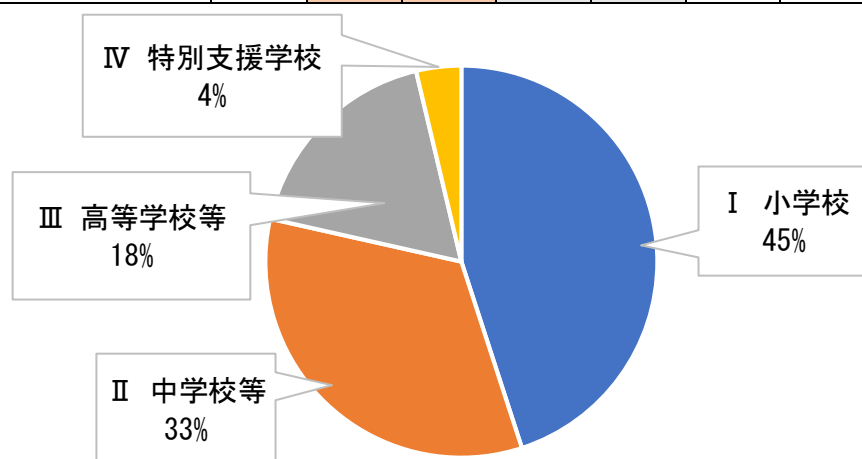


新型コロナウイルス感染症に関する学校の対応について
— 日教組 第3次 Web 調査結果 —

2021年3月10日

1. 調査名 新型コロナウイルス感染症に関する学校の対応について
日教組 第3次 Web 調査
2. 調査目的 新型コロナウイルス感染症に関する学校の対応について
学校現場の現状を調査し、必要な対策を政府・文科省に
求めるため。
3. 回答方法・期間 Web 調査 東京文久堂
2021年1月11日(月)～2月7日(日)
4. 回答状況 44都道府県 回答数1480分会
小学校666・中学校等496(義務学校含)
高校等263(中等学校含・私立高3私立中等2)
特別支援学校55

	小	中	義務	高	中等	特支	合計
I 小学校	666	0	0	0	0	0	666
II 中学校等	0	482	14	0	0	0	496
III 高等学校等	0	0	0	261	2	0	263
IV 特別支援学校	0	0	0	0	0	55	55
総計	666	482	14	261	2	55	1480



■ I 小学校 ■ II 中学校等 ■ III 高等学校等 ■ IV 特別支援学校

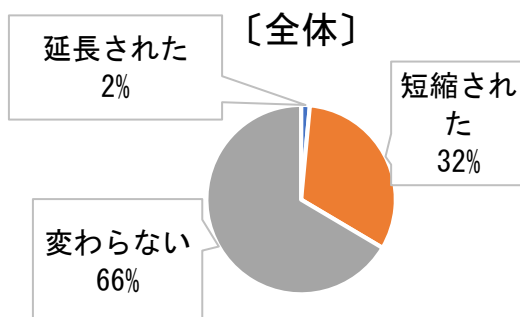
4. 日教組から単組へ依頼内容

- 学校における新型コロナウイルス感染症のクラスター報道等があることから、学校の対応を調査するため感染の確認された分会の回答を含めることを依頼

回答結果

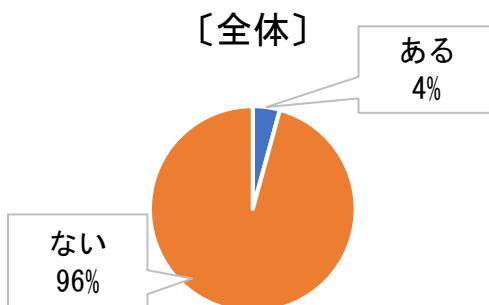
1. 冬季休業期間について

選択項目	I 小学校	II 中学等	III 高校等	IV 特支	総計
延長された	9	7	5	1	22
	1.4%	1.4%	1.9%	1.8%	1.5%
短縮された	243	158	64	9	474
	36.5%	31.9%	24.3%	16.4%	32.0%
変わらない	414	331	194	45	984
	62.2%	66.7%	73.8%	81.8%	66.5%
総計	666	496	263	55	1480



2. 「春季休業」期間の短縮予定について

選択項目	I 小学校	II 中学等	III 高校等	IV 特支	総計
ある	29	29	5	0	63
	4.4%	5.8%	1.9%	0.0%	4.3%
ない	637	467	258	55	1417
	95.6%	94.2%	98.1%	100.0%	95.7%
総計	666	496	263	55	1480

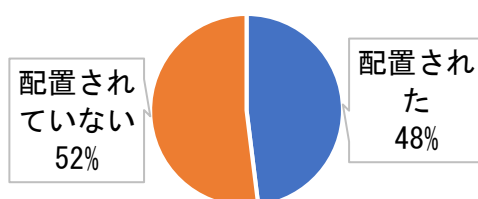


3. 新型コロナウイルス感染症の対応としての教職員等の配置について

(1) 教職員等の配置について

選択項目	I 小学校	II 中学等	III 高校等	IV 特支	総計
配置された	366	228	91	26	711
	55.0%	46.0%	34.6%	47.3%	48.0%
配置されていない	300	268	172	29	769
	45.0%	54.0%	65.4%	52.7%	52.0%
総数	666	496	263	55	1480

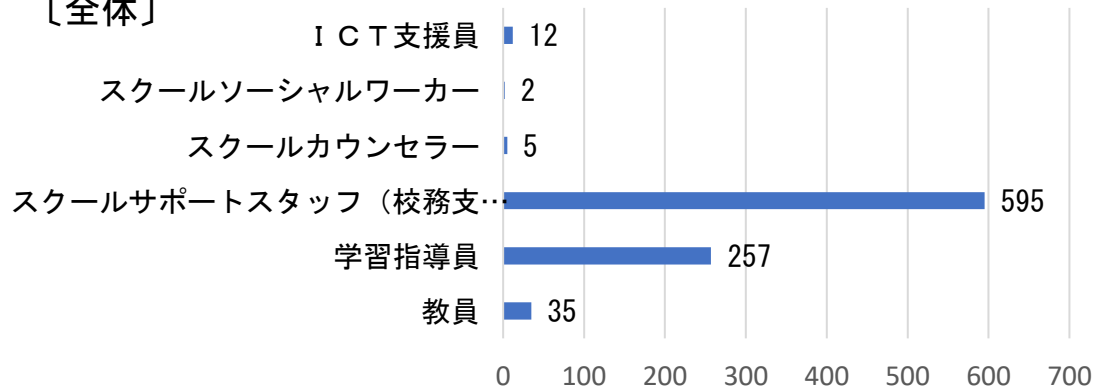
[全体]



(2) 職名ごとの配置数について

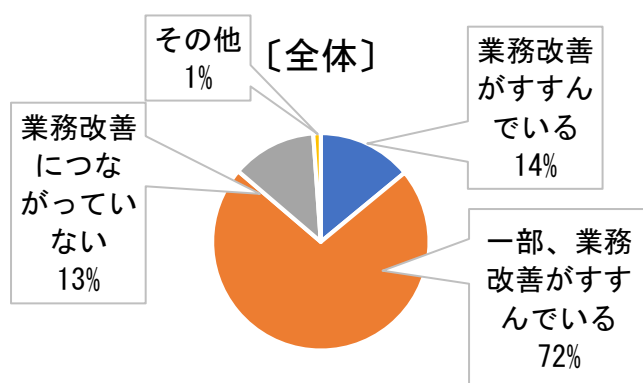
選択項目	I 小学校	II 中学等	III 高校等	IV 特支	総計
教員	17	14	2	2	35
	3.6%	4.7%	1.8%	6.5%	3.9%
学習指導員	143	90	18	6	257
	30.6%	30.1%	16.5%	19.4%	28.4%
スクールサポートスタッフ（校務支援員）	302	189	81	23	595
	64.7%	63.2%	74.3%	74.2%	65.7%
スクールカウンセラー	2	0	3	0	5
	0.4%	0.0%	2.8%	0.0%	0.6%
スクールソーシャルワーカー	0	1	1	0	2
	0.0%	0.3%	0.9%	0.0%	0.2%
ICT支援員	3	5	4	0	12
	0.6%	1.7%	3.7%	0.0%	1.3%
総計	467	299	109	31	906

[全体]



(3) 教職員等の加配配置と業務改善の実感について

選択項目	I 小学校	II 中学等	III 高校等	IV 特支	総計
業務改善がすすんでいる	42 11.5%	45 19.7%	6 6.6%	5 19.2%	98 13.7%
一部、業務改善がすすんでいる	283 77.3%	160 70.2%	56 61.5%	16 61.5%	515 72.2%
業務改善につながっていない	36 9.8%	23 10.1%	28 30.8%	3 11.5%	90 12.6%
その他	5 1.4%	0 0.0%	1 1.1%	2 7.7%	8 1.1%
総計	366	228	91	26	713



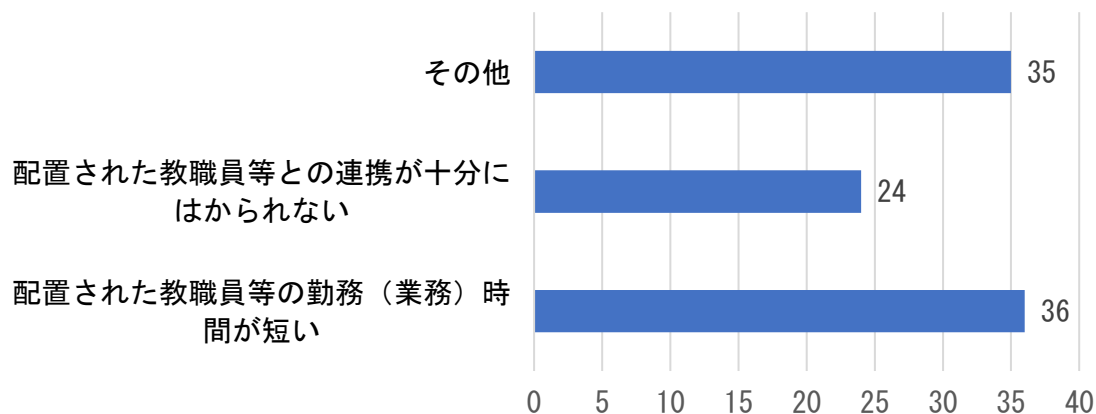
▶**その他**〔記述より日教組抜粋・整理 ※以下同様〕

- ・ 学習指導員は外国人の生徒のサポートはしているが、あまりやる事が無い状態となっている、学校の業務はあまりにたくさんあるのだが、かみ合っていない。根本的には定数増でないと解決しない。
- ・ 事務作業についてのサポートのみのため、印刷等が立て込んでいるときは助かるが、毎日いつでも必要なわけではない。それよりもコロナで行事等の削減やさまざまな変更により落ち着かない子どもたちに対応する人が足りない、子どもへの指導が可能なスタッフが必要。
- ・ 適した教職員を探すのが難しかった（あの時期に雇える人はなかなかいない）管理職の負担軽減にはつながっているが、一般職員まで活用が広がっていない。
- ・ 加配はあっても、勤務時間も少なく、全体としては業務改善につながるとまでは言えない。

(4) 「業務改善がすすまない」理由について

選択項目	I 小学校	II 中学等	III 高校等	IV 特支	総計
配置された教職員等の勤務（業務）時間が短い	18 50.0%	6 24.0%	9 30.0%	3 75.0%	36 37.9%
配置された教職員等との連携が十分にはかられない	4 11.1%	8 32.0%	11 36.7%	1 25.0%	24 25.3%
その他	14 38.9%	11 44.0%	10 33.3%	0 0.0%	35 36.8%
総計	36	25	30	4	95

〔全体〕



▶ **その他**

➤ 業務内容に偏りがある

- ・管理職が新たな取組を行い、それを補助する仕事をしていた。
- ・特定のクラスに配置されているため。
- ・一部の先生の負担軽減のみに感じる。自分の仕事は全く関係なく正直疑問を感じる。
- ・特別支援学級対応になってしまった。
- ・サポーターのできることが限られている。コピーとりなど、教頭や教務の補助になっている。

➤ 配置された教職員等・業務内容について

- ・日中の消毒作業をしてもらっているが、放課後の消毒は教員で行っているため、仕事は減っていない。
- ・校内の消毒作業が主な仕事であるため。
- ・配置されたサポートスタッフの仕事内容に制限あり。

- ・事務職としての配置なので、一部のアルコール消毒のみが軽減されている。
- ・施設改築の業務を担当されているのでコロナ対応とは関係しない。
- ・学習支援員は、単独で授業することは無いため、教員の担当時数減にはつながらない。
- ・現場が負担軽減につながると願っている仕事ではないから。現場で必要とされる業務に就けない。
- ・現場の忙しさを解消するために有効な職種ではない。全県で一律に学習サポーターの導入が決まり、予算が付いたから仕方なくサポーターを導入したといった印象となった。

➤ 「未充足」、「病休等補充」が解消されていない

- ・SSSさんが加配されたが、未配置教職員分が配置されず負担が大きい。
- ・もともと校内操作で、標準定数の1クラスを2クラスに分けているため、フリーの教員がいない。また、2学期は病休者が3人続き、代替者もこず、教員が足りない状態にあった。その上、課題を抱えている子どもの対応に管理職も動き回っている状態、やはり、教員がたりない。
- ・正規職員2名が休職中のためギリギリ、人が全く足りていません。

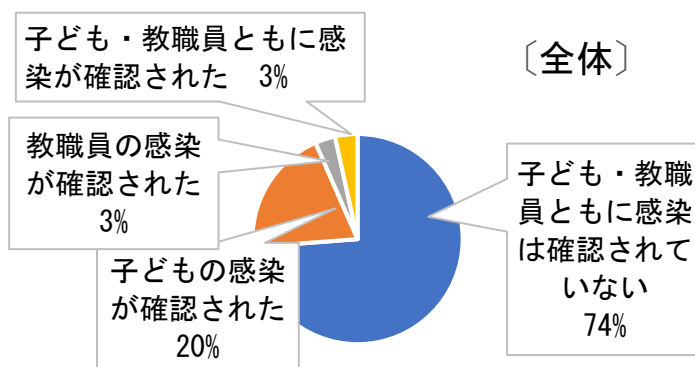
➤ その他

- ・やることが多すぎるから。
- ・学習など、支援の必要な児童が多い。
- ・臨時休業の影響や対策のために業務は増加しており、今までの業務の軽減には至っていない。
- ・2ヶ月ほど校舎の消毒をする職員が配置されたが、すでに配置はない。消毒作業は掃除の時間にみんなでしている。

4. 学校における新型コロナウイルス感染者（PCR 検査陽性者）の状況について

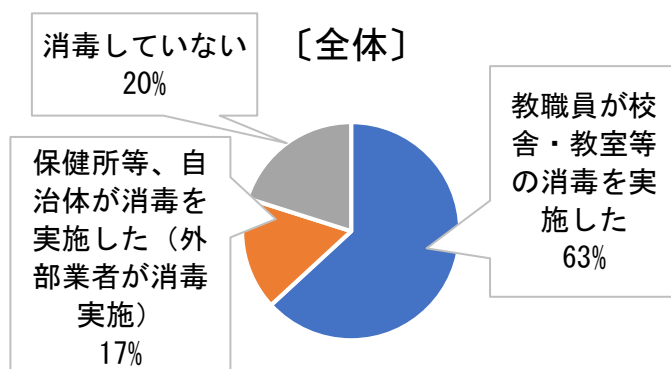
(1) 子ども・教職員の感染者・陽性者の状況について

選択項目	I 小学校	II 中学等	III 高等等	IV 特支	総計
子ども・教職員ともに感染は確認されていない	506 76.0%	380 76.6%	161 61.2%	45 81.8%	1092 73.8%
子どもの感染が確認された	124 18.6%	87 17.5%	74 28.1%	6 10.9%	291 19.7%
教職員の感染が確認された	21 3.2%	13 2.6%	9 3.4%	3 5.5%	46 3.1%
子ども・教職員ともに感染が確認された	15 2.3%	16 3.2%	19 7.2%	1 1.8%	51 3.4%
総計（感染確認総数）	666(160)	496(116)	263(102)	55(10)	1480(388)



(2) 子ども・教職員の感染が確認された学校における校舎等の消毒について

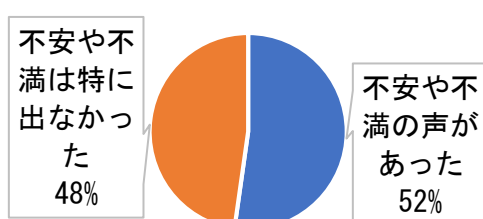
選択項目	I 小学校	II 中学等	III 高等等	IV 特支	総計
教職員が校舎・教室等の消毒を実施した	97 60.63%	76 65.52%	65 63.73%	7 70.00%	245 63.1%
保健所等、自治体が消毒を実施した（外部業者が消毒実施）	37 23.13%	19 16.38%	8 7.84%	1 10.00%	65 16.8%
消毒していない	26 16.25%	21 18.10%	29 28.43%	2 20.00%	78 20.1%
総計	160	116	102	10	388



(3) 子ども・教職員の感染が確認された学校における校舎等の消毒を教職員が行った際の不安・不満について

選択項目	I 小学校	II 中学等	III 高校等	IV 特支	総計
不安や不満の声があった	57	33	33	5	128
	57.6%	43.4%	50.0%	71.4%	52.2%
不安や不満は特になかった	40	43	32	2	117
	42.4%	56.6%	50.0%	28.6%	47.8%
総計	97	76	65	7	245

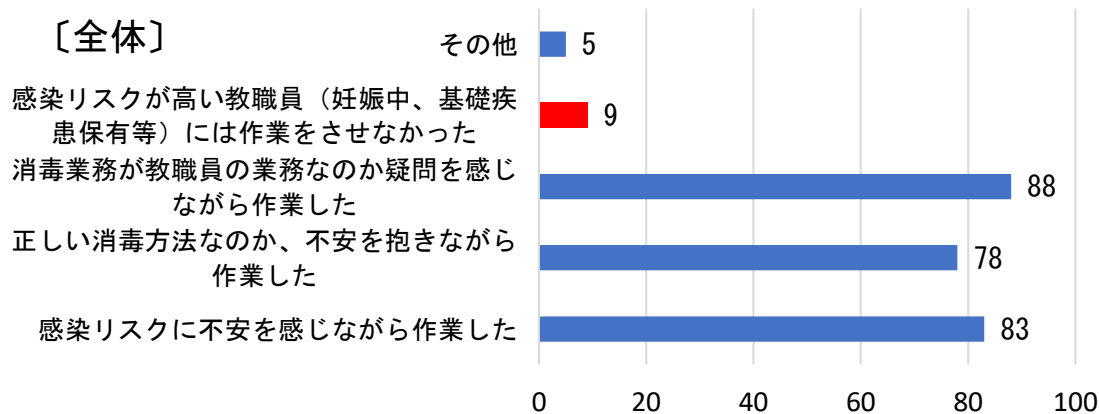
〔全体〕



(4) 不安・不満の声の詳細、感染リスクの高い教職員への配慮について

選択項目	I 小学校	II 中学等	III 高校等	IV 特支	総計
感染リスクに不安を感じながら作業した	35	19	26	3	83
	30.2%	27.9%	35.6%	50.0%	31.6%
正しい消毒方法なのか、不安を抱きながら作業した	36	21	19	2	78
	31.0%	30.9%	26.0%	33.3%	29.7%
消毒業務が教職員の業務なのか疑問を感じながら作業した	39	24	25	0	88
	33.6%	35.3%	34.2%	0.0%	33.5%
感染リスクが高い教職員（妊娠中、基礎疾患保有等）には作業させなかった	4	3	2	0	9
	3.4%	4.4%	2.7%	0.0%	3.4%
その他	2	1	1	1	5
	1.7%	1.5%	1.4%	16.7%	1.9%
総数	116	68	73	6	263

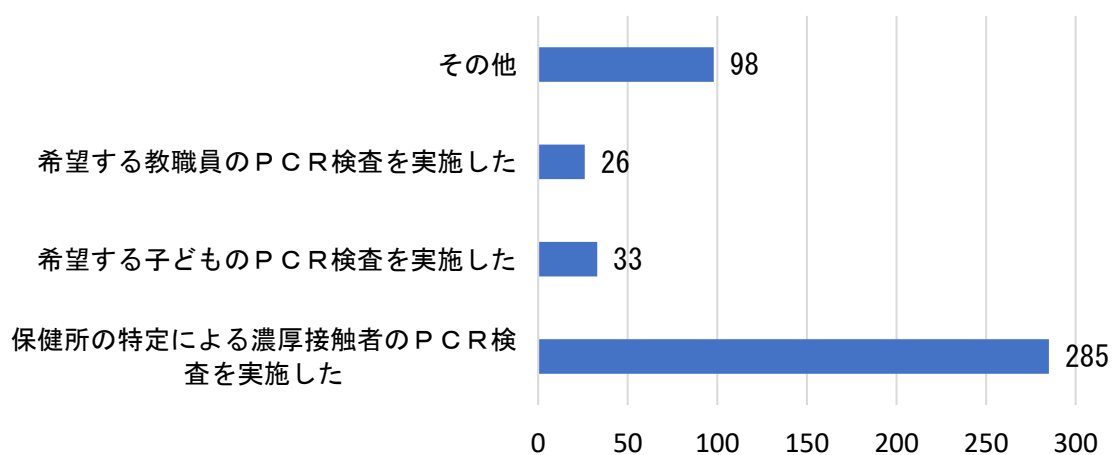
〔全体〕



(5) 学校で感染者が出た際の PCR 検査の実施状況について

選択項目	I 小学校	II 中学等	III 高校等	IV 特支	総計
保健所の特定による濃厚接触者の検査	114 61.6%	86 66.7%	77 65.3%	8 80.0%	285 64.5%
希望する子どもの検査	15 8.1%	8 6.2%	9 7.6%	1 10.0%	33 7.5%
希望する教職員の検査	11 5.9%	8 6.2%	7 5.9%	0 0.0%	26 5.9%
その他	45 24.3%	27 20.9%	25 21.2%	1 10.0%	98 22.2%
総計	185	129	118	10	442

〔全体〕



▶ その他

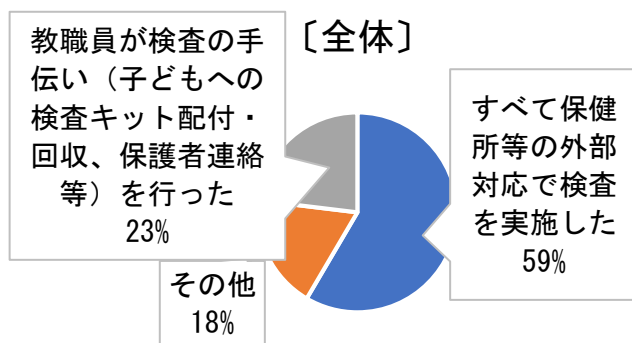
➤ 「濃厚接触者なし」について

- ・マスクをしていれば「濃厚接触者に当たらない」として PCR 検査をしていません。
- ・判明した 2 週間前には登校していなかったため接触者なしと認定。
- ・昼食・部活動の状況を保健所に電話で報告したところ、特定者はいないとのことだった。
- ・元々休校措置の期間中の感染者発生のため、消毒や PCR 検査等の該当にはならなかった。
- ・冬季休業中ということもあり、濃厚接触者はありませんでした。
- ・家族以外に濃厚接触者がいないため PCR 検査の実施、案内ともされなかった。
- ・校外での感染と思われ、休日の関係で校内感染としての対応はなし。

- 「濃厚接触者なし」であったが、検査を実施した
 - ・濃厚接触者とまではいかないが、心配なので、ほぼ全員が PCR 検査を実施した。
 - ・濃厚接触者もしくは接触者とは認定されなかったが、児童が在籍する学級の担任と児童全員が検査を受けた。
 - ・濃厚接触者に限らず、幅広く検査を行った。
 - ・2度とも濃厚接触者は0ということだったが、授業や部活等で関わりを持った生徒、教職員が検査を行った。
 - ・念のため受けた児童もいた。
- 検査を実施したかどうか不明
 - ・個人名を出していないので、検査を実施したかはわかりません。

(6) PCR 検査実施の際の学校・教職員の関わりについて

選択項目	I 小学校	II 中学等	III 高校等	IV 特支	総計
教職員が検査の手伝い（子どもへの検査キット配付・回収、保護者連絡等）を行った	38 23.6%	32 27.4%	19 18.6%	1 10.0%	90 23.1%
すべて保健所等の外部対応で検査を実施した	89 55.3%	67 57.3%	64 62.7%	8 80.0%	228 58.8%
その他	33 21.1%	17 14.7%	19 18.6%	1 10.0%	70 18.0%
総計	160	116	102	10	388



▶ **その他**

- 学校での PCR 検査は実施されなかった
- 対応は求められなかった
 - ・冬休み期間中の感染であったため、対応は求められなかった。

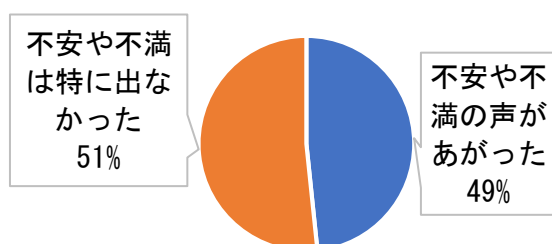
➤ 学校・教職員が対応した際の具体

- ・PCR 検査先の病院へ行き、病院内の検査場所への案内を保健所より頼まれた。
- ・教職員が対象者に検査の受け方について等、電話連絡した。養護教員が大変だった。
- ・保健所から濃厚接触者と認められる該当者は保健所からの電話があるので驚かれないようにという連絡を保護者に入れました。
- ・交通整理（車の誘導等・ドライブスルー検査誘導）を教職員が行った。
- ・保健所の立ち会い。
- ・管理職が対応した。
- ・検査の手伝いに当てはまるかもしれませんが、次の4点を学校で行いました。
 - ①保健所の指示により学校が濃厚接触者の名簿を作成、名簿に載った生徒担任が各自にその旨連絡。また保健所から開示請求のあった資料（健康観察シート、行動記録等）の提出
 - ②保健所の指示で希望者の PCR 検査が可能になったため、生徒への呼びかけ（担任）と希望者名簿の作成
 - ③濃厚接触者および希望者は保健所と直接やりとりをし、指定病院へ個別に行き検査。結果は病院から個別通知
 - ④担任が濃厚接触者および希望者から検査結果の連絡を受け（連絡のない生徒への度重なる電話連絡）結果を保健所へ報告。

(7) PCR 検査に教職員が関わった際の不安・不満について

選択項目	I 小学校	II 中学等	III 高校等	IV 特支	総計
不安や不満の声があがった	21	13	10	0	44
	55.2%	40.6%	52.6%	0.0%	48.9%
不安や不満は特に出なかった	17	19	9	1	46
	44.7%	59.4%	47.4%	100.0%	51.1%
総計	38	32	19	1	90

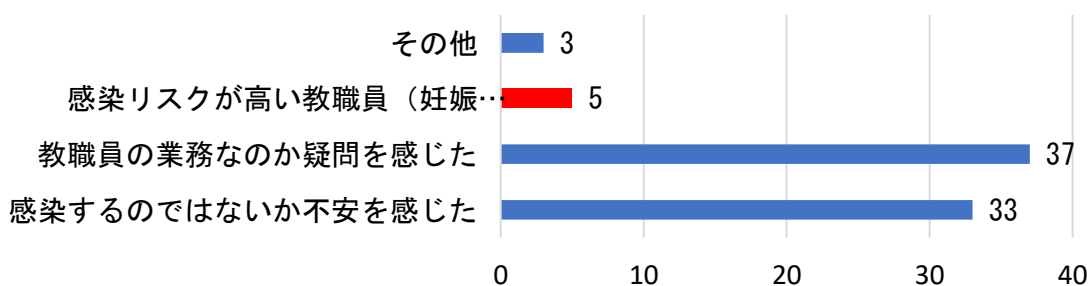
〔全体〕



(8) PCR 検査に関わった際の不安・不満の詳細、**感染リスクの高い教職員への配慮**について

選択項目	I 小学校	II 中学等	III 高校等	IV 特支	総計
感染するのではないかと不安を感じた	18 45.0%	9 40.9%	6 37.5%	0 0%	33 42.3%
教職員の業務なのか疑問を感じた	19 47.5%	10 45.5%	8 50.0%	0 0%	37 47.4%
感染リスクが高い教職員（妊娠中、基礎疾患保有等）は関わらせなかった	2 5.0%	3 13.6%	0 0.0%	0 0%	5 6.4%
その他	1 2.5%	0 0.0%	2 12.5%	0 0%	3 3.8%
総計	40	22	16	0	78

〔全体〕

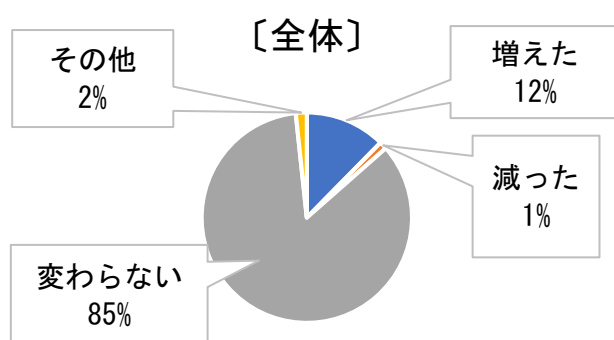


▶**その他**

※前述の PCR 検査に対応の自由記述と同様内容であるため省略

5. 「冬休み明け」の不登校、「保健室登校」の子どもの増加について

選択項目	I 小学校	II 中学等	III 高校等	IV 特支	総計
増えた	73	72	35	3	183
	11.0%	14.5%	13.3%	5.5%	12.4%
減った	5	8	3	1	17
	0.8%	1.6%	1.1%	1.8%	1.1%
変わらない	574	414	220	47	1255
	86.2%	83.5%	83.7%	85.5%	84.8%
その他	14	2	5	4	25
	2.1%	0.4%	1.9%	7.3%	1.7%
総計	666	496	263	55	1480

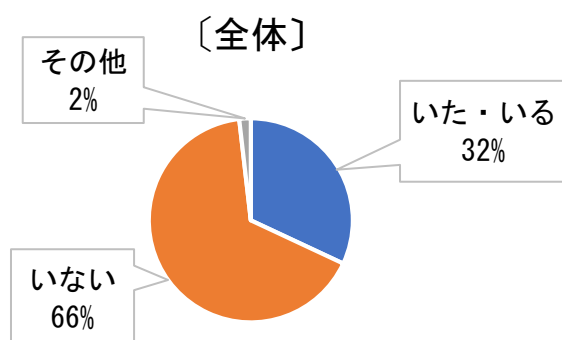


▶**その他**

- ・冬休み明けと同時に臨時休校となり、不登校・保健室登校の増減は分からない。
- ・豪雪による臨時休校措置のため、まだ不明。
- ・遅刻が増えたような気がする。
- ・行きたくないという児童が増えてきた。
- ・2学期中から増えていた。

6. 「冬休み明け」に感染予防の理由で登校しない子どもの存否について

選択項目	I 小学校	II 中学等	III 高校等	IV 特支	総計
いた・いる	214	147	93	19	473
	32.1%	29.6%	35.4%	34.5%	32.0%
いない	440	347	160	33	980
	66.1%	70.0%	60.8%	60.0%	66.2%
その他	12	2	10	3	27
	1.8%	0.4%	3.8%	5.5%	1.8%
総計	666	496	263	55	1480

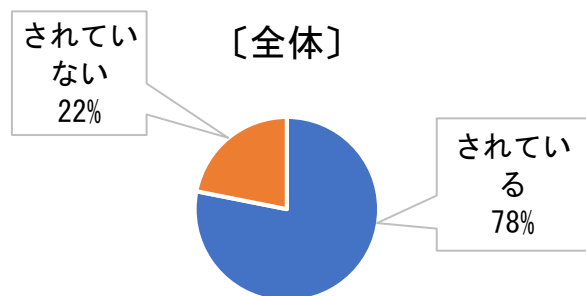


▶その他

- ・本人は濃厚接触者ではなかったが家族に濃厚接触者がいたため、出席停止対応をした生徒がいた。
- ・親が濃厚接触者として、PCR 検査を受けるので、結果が出るまで休んだ。
- ・受験を控えていてそのために感染症予防で休んでいる児童はいる。
- ・冬休み明けではないが、大学入試で関東や福岡に行った生徒が自主的に登校自粛した例はある。
- ・冬休み前に限らず1学期の休業明けから感染予防のため、時々欠席する生徒がいる。もともと病弱のようですが。

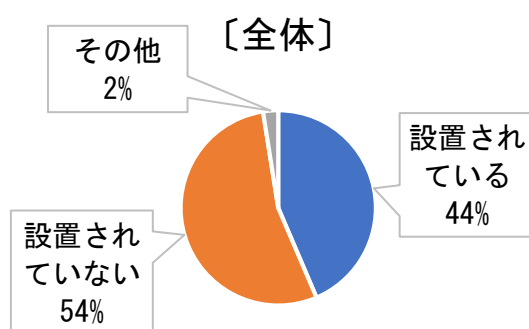
7. 12月3日改訂、文科省「衛生管理マニュアル」の周知について

選択項目	I 小学校	II 中学等	III 高校等	IV 特支	総計
されている	542	403	170	41	1156
	81.4%	81.3%	64.6%	74.5%	78.1%
されていない	124	93	93	14	324
	18.6%	18.8%	35.4%	25.5%	21.9%
総計	666	496	263	55	1480



8. 普通教室の換気扇等の設置状況について

選択項目	I 小学校	II 中学等	III 高校等	IV 特支	総計
設置されている	266	224	130	25	645
	39.9%	45.2%	49.4%	45.5%	43.6%
設置されていない	385	263	122	28	798
	57.8%	53.0%	46.4%	50.9%	53.9%
その他	15	9	11	2	37
	2.3%	1.8%	4.2%	3.6%	2.5%
総計	666	496	263	55	1480



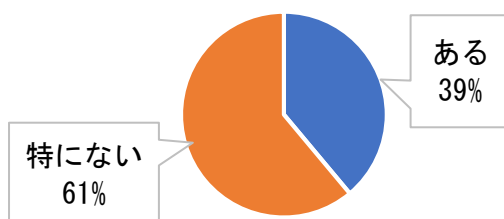
▶その他

- ・一部の普通教室には、常時換気ができる換気扇が設置されている。
- ・教室の天窓と対角線にあたる窓を常に開けておくことを意識してもらうために、大きく「換気口」というシールを貼って回った。（保健部と事務部での共同作業）
- ・欄間を常時開けている。
- ・常時廊下の窓をあけ、換気を行なっている。
- ・窓を適宜開けて空気入れ換えに対応。
- ・移動式のサーキュレーターが準備された。
- ・加湿空気清浄機を設置。
- ・一部故障等不具合あり。
- ・今後全教室に換気機能付きのエアコンが設置される予定。（現在は低学年のみ設置）

9. 衛生管理マニュアルにおける「30分に1回、少なくとも休み時間の換気」の課題や要望について

選択項目	I 小学校	II 中学等	III 高校等	IV 特支	総計
ある	274	175	101	26	576
	41.1%	35.3%	38.4%	47.3%	38.9%
特にない	392	321	162	29	904
	58.9%	64.7%	61.6%	52.7%	61.1%
総計	666	496	263	55	1480

〔全体〕



10. 教室の換気における課題・要望について

選択項目	I 小学校	II 中学等	III 高校等	IV 特支	総計
教室が寒い	245 45.2%	147 42.2%	86 44.1%	21 42.9%	499 44.0%
子どもの集中力が低下する	47 8.7%	28 8.0%	8 4.1%	3 6.1%	86 7.6%
換気のための窓開けの業務を教員が担い、負担となっている	63 11.6%	33 9.5%	27 13.8%	4 8.2%	127 11.2%
常時換気できる設備を設置してほしい	111 20.5%	79 22.7%	40 20.5%	13 26.5%	243 21.4%
暖房費が不足しているので予算的支援が必要である	67 12.4%	50 14.4%	28 14.4%	6 12.2%	151 13.3%
その他	9 1.7%	11 3.2%	6 3.1%	2 4.1%	28 2.5%
総計	542	348	195	49	1134

〔全体〕



▶その他

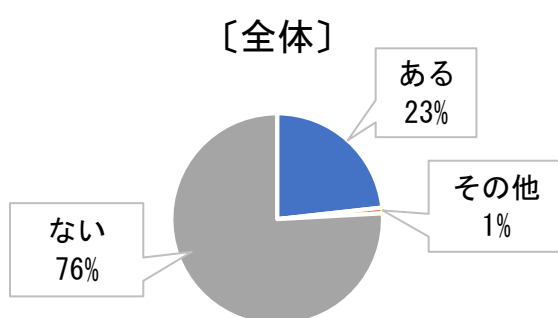
- ・雪が入り込むことがある。
- ・雨天時は窓を開けると雨が入ってくるため、開けることができない。
- ・真冬に窓開けをすることで体調不良の子どもが増える。
- ・普通教室に県費でエアコンがレンタルで設置されているが、夏のクーラー用としてしか使えない。これを暖房もできるよう契約をし直して欲しい。ガストーブ一台では生徒は寒すぎる。
- ・英語のリスニングテストの時窓の外がうるさくて音が聞き取りにくかった。
- ・教室が寒いので、服を着てくる事で服装のトラブルがある。
- ・授業の途中に換気するので忘れやすいし、かなりの負担。
- ・高校は教科ごとに教員が入れ替わったり分割授業等での教室移動があったり

するので、換気は生徒への指示にとどまることが多く、マニュアル通りに行うことが難しい。

- ・換気した所で、教室に随時 30 人強の生徒と一緒に授業する限り換気の意味がない気がする。
- ・冷暖房に係るガス代が昨年比 2 倍以上になっている。
- ・暖房の温度設定が低いため、窓を開けていると温度が上がらないし、電気代かかってしまう。
- ・エアコンの電力が不足してアラームがなる。

11. 新型コロナウイルス感染症で新たな業務が付加される中での削減された業務の存否について

選択項目	I 小学校	II 中校等	III 高校等	IV 特支	総計
ある	182	124	26	12	344
	27.3%	25.0%	9.9%	21.8%	23.2%
ない	480	366	234	43	1123
	72.1%	73.8%	89.0%	78.2%	75.9%
その他	4	6	3	0	13
	0.6%	1.2%	1.1%	0.0%	0.9%
総計	666	496	263	55	1480

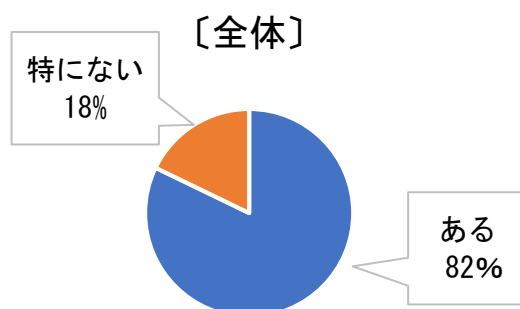


▶その他

- ・出張、行事等がほとんど無くなっているため業務は減っている。
- ・出張（会議等）が Web 開催になってきている。
- ・「ない」だが、行事の縮小や中止、外部に対応が減った点で結果的に負担軽減になった面もある。
- ・職場体験中止、合唱コンクール中止、自然教室を日帰りに変更、修学旅行を日帰り遠足に変更、文化祭、体育祭の規模を縮小し、例年と違う形で実施。
- ・昼食時の指導が追加されたが、その分早めに帰宅してよいことになった。しかし早めに帰宅する職員はほとんどいない。
- ・オンライン授業に向けた対応もあり、業務は増加している。
- ・行事は減ったが、業務は削減されず増えた。
- ・何もありません。増える一方です。

12. 新型コロナウイルス感染症において、職場で「苦慮している」「心配していること」の存否について

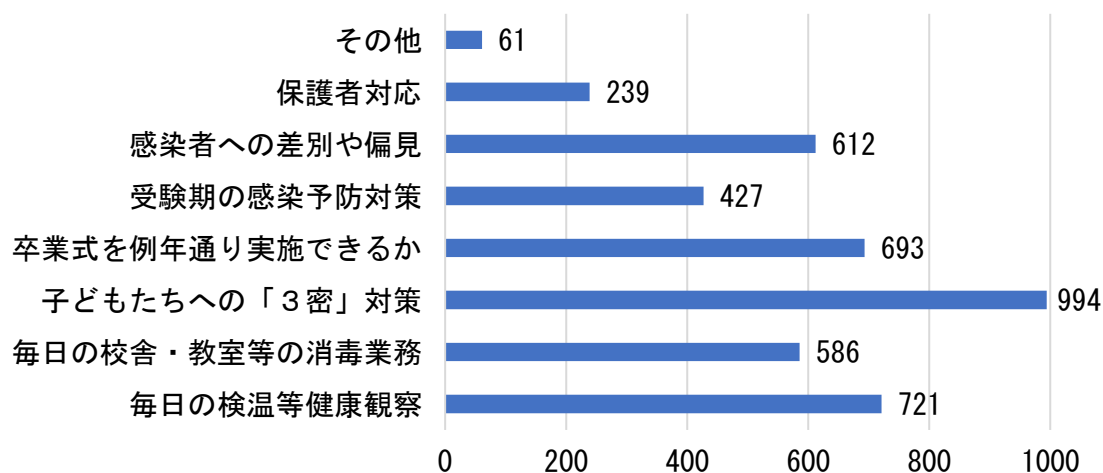
選択項目	I 小学校	II 中学等	III 高校等	IV 特支	総計
ある	558	402	207	49	1216
	83.8%	81.0%	78.7%	89.1%	82.2%
特にない	108	94	56	6	264
	16.2%	19.0%	21.3%	10.9%	17.8%
総計	666	496	263	55	1480



13. 「苦慮」「心配」していることの詳細について

選択項目	I 小学校	II 中学等	III 高校等	IV 特支	総計
毎日の検温等健康観察	361	225	119	16	721
	18.5%	14.6%	17.2%	11.4%	16.6%
毎日の校舎・教室等の消毒業務	272	187	101	26	586
	13.9%	12.1%	14.6%	18.6%	13.5%
子どもたちへの「3密」対策	482	323	152	37	994
	24.7%	20.9%	21.9%	26.4%	22.9%
卒業式を例年通り実施できるか	346	242	87	18	693
	17.7%	15.7%	12.6%	12.9%	16.0%
受験期の感染予防対策	36	278	103	10	427
	1.8%	18.0%	14.9%	7.1%	9.9%
感染者への差別や偏見	298	206	90	18	612
	15.3%	13.3%	13.0%	12.9%	14.1%
保護者対応	117	74	35	13	239
	6.0%	4.8%	5.1%	9.3%	5.5%
その他	42	11	6	2	61
	2.1%	0.7%	0.9%	1.4%	1.4%
総計	1954	1546	693	140	4333

〔全体〕



▶その他

➤ 「3密」対策等、感染の予防について

- ・密を避けるための教場確保。教職員定数の改善。
- ・学校へ生徒を登校させること自体が、感染拡大を招くのではないかと日々不安である。学校はトイレ、蛇口、手洗い場などが全て共用であることなどから、無症状の感染者がいれば感染が拡大しやすい環境であることは明白だ。
- ・検温をしてこない児童への対応。

- ・マスクをしたがらない生徒への指導。
- ・知的障害対象校、密の対策は困難である。
- ・保健所から校舎内の消毒指示がでた場合でもするのは教職員である。陽性者や濃厚接触に対する学習の補償。濃厚接触での出席停止についても差別や偏見が心配。
- ・昼食時に自クラス自席で食事するよう指導。担任・副担任は昼休みが返上となっている。
- ・発熱児童の早退までの別室待機 別室がない。
- ・登校後に感染の可能性が高いと判断される生徒がいた場合、保護者の迎えがあるまで対応する教員に防護服等の備えがないこと。
- ・スクールバスが3密になりやすいため、消毒作業を登校後バス到着時、下校時の児童生徒下車後に行う作業が大変です。現在は予算の追加配分があり、バスの増便がされているが、4月以降も継続されるかが心配。
- ・PCR検査の対象を学部ごとくらいに拡大してほしい。
- ・まだ感染者が出ていないので、生徒たちの感染防止の意識に気の緩みが見られる。

・

➤ 行事等について

- ・卒業式のみならず入学式も例年通りはすでに厳しいと判断している。保護者が自分の子どもだけを基準にクレームを言うこのご時世なので、早めの対応策を打ち出して欲しい。
- ・生徒が楽しみにしている行事の対策を行い実施出来れば良いが中止にせざるを得ないものもあること。
- ・卒業式に向けた式歌の練習を、望まない教員がほとんどなのに、増えること。
- ・修学旅行等が次年度に持ち越しになり、次年度は二学年が修学旅行に行く予定だが、旅費予算が確保されるのかなどの明確な回答がないので、不安が大きい。
- ・次年度の健康診断の実施期限は延長されるのか。
- ・学校行事（運動会、参観、「就学時健康診断」など）での参加者（保護者）の検温が大変だった。

▶ 授業・評価等について

- ・リモート授業などの教材研究が負担。
- ・急激なIT化が進み、その分野に明るい方以外はリモート授業の準備や評価などに苦慮している。
- ・グループ学習など、学び合いの機会が減ること。
- ・3学期の学習を繰り返してやっている。学習を急ぐので低学力の子どもはついて来られない。
- ・机と机の間隔を広くとらなくてはならず、黒板がとても見づらい位置にも机を置いている。教師用事務机もすでに撤去しているのにスペースがなく、転校生が来ても机を置く場所がない。このうえ、ギガスクール構想の端末収納庫を教室に据え付けなければならず、困っている。
- ・ことばの教室での個別指導の際、口元を見ながらの指導なので、マスクを取らなければならない事。
- ・教職員に感染者が出たときの対応、授業補欠などはどう実施するのか。
- ・感染症への不安から出校しない生徒に対しては出校停止の措置があるが、その間の該当生徒に対する学習機会の保障。または評価の平等性の確保（出席日数等）。
- ・授業時数の確保。

▶ 教職員について

- ・PCR検査を全教職員に定期的に行ってほしい。
- ・教職員がコロナや濃厚接触者になり、教員の数足りない
- ・毎日電車で通勤しているので、感染の可能性が高まり恐ろしい。
- ・発生した際における膨大な量の報告書の作成。
- ・栄養士の負担。休校により、食材調整、献立など一手に担っている。

▶ その他

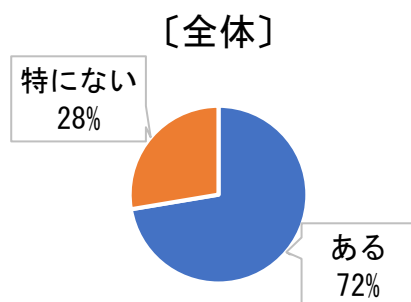
- ・感染者への差別や偏見に対する教育をどうするべきか。
- ・学習や生活の制約による、子どもの発達への影響。
- ・学校や子ども、教職員が世間から監視されている気がする。
- ・教育委員会が、学校での感染状況を公にしない事。
- ・教育長がコロナの感染拡大などないものの如くに各種研究集会や部活、学校

公開などを行うようにとの指示を出す。

- ・予防をしようと思えばきりがなく、やり過ぎると負担になる。バランスを取らなくてはと思うが、求められることが多い。
- ・家庭で過ごすことが増えているなか、地域住民から児童の遊び方の苦情が学校にくる。同様に、コロナウイルスの消毒作業のため、本年度は登校時の見回りも十分にできておらず、登校時の歩き方が悪いから見回りをしてほしい等の苦情がある。

14. 「職場の課題」の存否について

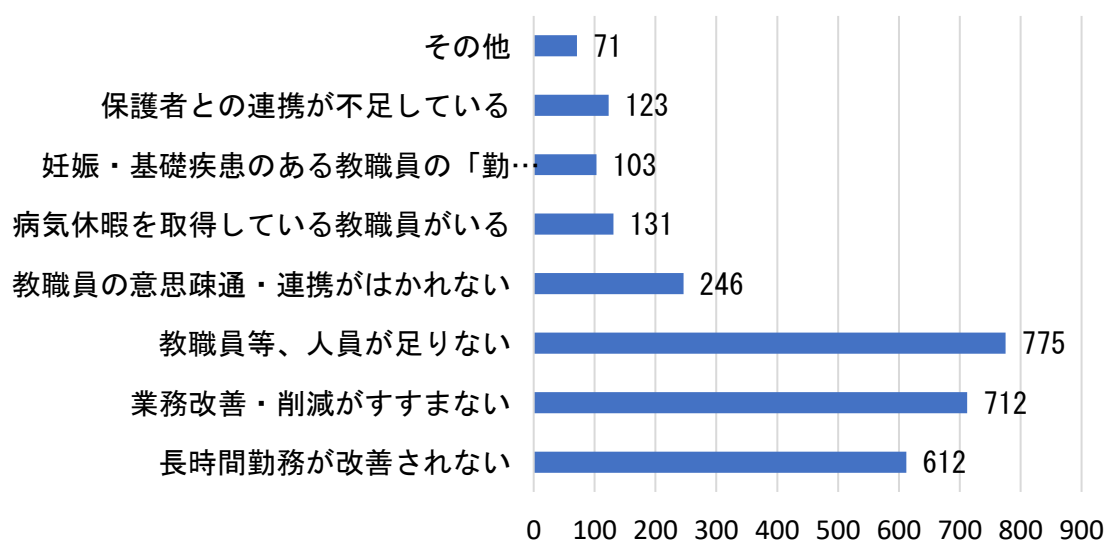
	I 小学校	II 中学等	III 高校等	IV 特支	総計
ある	492	357	182	40	1071
	73.8%	72.0%	69.2%	72.7%	72.4%
特にない	174	139	81	15	409
	26.1%	28.0%	30.8%	27.3%	27.6%
総計	666	496	263	55	1480



15. 「職場の課題」の具体について

	I 小学校	II 中学等	III 高校等	IV 特支	総計
長時間勤務が改善されない	288 23.0%	206 22.8%	103 20.1%	15 14.6%	612 22.1%
業務改善・削減がすすまない	310 24.8%	239 26.4%	136 26.5%	27 26.2%	712 25.7%
教職員等、人員が足りない	360 28.8%	257 28.4%	132 25.7%	26 25.2%	775 27.9%
教職員の意思疎通・連携がはかれない	96 7.7%	85 9.4%	54 10.5%	11 10.7%	246 8.9%
病気休暇を取得している教職員がいる	59 4.7%	33 3.6%	29 5.7%	10 9.7%	131 4.7%
妊娠・基礎疾患のある教職員の「勤務軽減策」等が講じられない	43 3.4%	31 3.4%	23 4.5%	6 5.8%	103 3.7%
保護者との連携が不足している	65 5.2%	36 4.0%	18 3.5%	4 3.9%	123 4.4%
その他	31 2.5%	18 2.0%	18 3.5%	4 3.9%	71 2.6%
総計	1252	905	513	103	2773

〔全体〕



▶その他

➤ 人員不足、業務改善等について

- ・スクールサポートスタッフは人員がいらないため未配置である。校内の消毒業務や3密対策も職員間でも意識の差が大きい。

- ・産休代替の教員が来ない(人がいない)。
- ・業務が終わらないのに、定時に施錠され、持ち帰りがふえた。持ち帰れない仕事もある為、早朝や休み時間を利用している。
- ・基礎疾患がある職員の業務軽減もされていません。基礎疾患のある職員が、校内で行った PCR 検査の唾液検体キットの受け取りを行わされており、軽減どころか感染リスクの高い仕事につかされています。
- ・感染防止対策に追われて、業務削減に気が回らない。
- ・スクールバス添乗業務が改善されない。
- ・育児世代の教職員が増えて、臨時講師の確保が難しい。教頭、教員の仕事を他へ移すため、教員以外のスタッフの充実が必要。事務職員の定数改正、保護者の対応スタッフ強化、地域連携スタッフ、施設管理警備員など。
- ・現状のサポートが新年度からも引き続き継続されるのか。

➤ 教職員の意思疎通・連携について

- ・管理職が、教委等の判断に過敏になって、判断が遅かったり、横並びになったりしている。自主的な判断ができていないことが多い。最初の感染校になることを恐れている。
- ・感染に対しての、温度差。他の教科は自粛するが、音楽の合唱は許されるのは不思議すぎる。

➤ 校舎等施設整備について

- ・クラスの人数が、どの学年も 40 人近い人数の為、密が避けにくい状況である。
- ・教室が足りない。校舎、体育館の雨漏り等、施設面の不備が一向に改善されないこと
- ・個別指導を行うための教室・部屋の数が足りない。
- ・校舎設備が古い。

➤ 授業について

- ・音楽や体育の授業で、共有物をつかえないことによって、教育課程がすべておわらないかもしれない。

➤ ICT 教育関連について

- ・教育活動に資する校内 ICT 環境の整備が進まない(先日は各教室に PC もディ

スプレイもプロジェクターもない本校で、無線 LAN が整備された)。

- ・ ICT の研修が多い。性急な ICT 環境の整備で担当職員に負担。同時にフォルダ整理を求められるが、勤務内に作業時間がない。
- ・ ギガスクール構想開始への対応。ICT の活用が強制される状況が負担。
- ・ タブレットや電子黒板の導入に伴う業務が加わったこと。
- ・ オンライン授業を教育長がどんどん進めようとしていること。撮影時に映る子どもの個人情報等、課題が残っているのに。

▶ 子どもの実態・保護者との連携等について

- ・ 不適応を起こす児童が増え対策に追われている。
- ・ 一部の児童の実態がひどくまともな指導が通らない。また、その子たちの親への対応も大変である。

▶ その他

- ・ 教職員の疲労、いつ感染するかわからない不安感が解消されない。
- ・ 教職員の健康管理が後回し。教職員の家族にも心配がある。
- ・ 陽性者や濃厚接触者になった児童の行動履歴の確認作業に、かなりの時間がかかる。授業の時間を使って聞き取りなどを行うことになる。児童は二週間の自宅待機となるため、学習進度に大きな差が出てしまう。
- ・ 管理職の感染症に対する理解不足、リーダーシップの不足で教職員が疲弊している。管理職が一部の職員間のみで情報を保持し職員へ周知されていないこともあり、現場に不安・不満が生じている。
- ・ PCR 検査を全教職員に定期的にしてほしい。感染者が出たときぐらいは生徒達にも大規模にするべき。
- ・ オリンピックの観戦が未だに強行されようとしている。

調査のまとめ

I 設問 1. 冬季休業期間の短縮、設問 2. 春季休業の短縮予定 から

前回実施した日教組第 2 次 Web 調査（20 年 9 月 30 日発表 回答数 1152）では、「冬季休業の短縮予定」については、短縮を予定しているは 28.6%でした。本調査では、「実際に短縮された」は 32.0%でした。

春季休業について、95.7%（1480）が「短縮の予定なし」です。教職員にとってこの期間は「まとめと準備」の業務が山積し、人事異動も重なる時期です。やむを得ず短縮する場合には、業務分担・軽減等の措置がはかられなければなりません。

II 設問 3. 新型コロナウイルス感染症の対応としての教職員等の配置 から

萩生田文科大臣は国会において、新型コロナウイルス感染症に関する教職員等の配置状況について、「令和 2 年度の第 2 次補正予算において、教員の加配、学習指導員、スクールサポートスタッフの追加配置分、合計約 85,000 人分、310 億円を計上しておりまして、その約 8 割に当たる約 71,000 人分について、自治体の希望どおり配置ができました。各自治体においては、少人数指導や複数人による指導強化、教員の業務支援などが大規模に実施されている（2.12 衆予算委員会）」と答弁しました。

本調査では、配置 48.0%でした。配置された学校での業務改善の実感は、「業務改善がすすんでいる」、「一部すすんでいる」で 8 割を超えます。新型コロナウイルス感染症の対応により業務が増加する中、教職員をはじめとする「スタッフ職」の増員は継続される必要があります。

一方、配置されたものの勤務時間の短さや業務連携等が課題とされています。実質的な業務改善につながるよう教委や管理職による解決が急がれます。また、「未充足」や「代替教職員の未補充」を教委は放置してはなりません。

GIGA スクール構想等にもとづく、ICT 教育がすすめられる中、ICT 支援員が十分に配置されていません。ICT 教育では、支援体制の一環として、ICT 支援員等の配置拡充が不可欠です。また、限られた研修時間をバランスよく配置し、新学習指導要領の実施にともなう研修や GIGA スクール構想の実現にむけた ICT の活用研修は、学校・教職員の負担なく行われなければなりません。

III 設問 4. 学校における新型コロナウイルス感染者の状況と対応 から

感染者（子ども・教職員・両者）が確認された学校は 26.2%でした。これには、家庭感染等の学校以外での感染者も含まれます。

子どもや教職員の感染者が発生した場合について、文科省は、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生マニュアル」において、

- ・感染者本人への行動履歴等のヒヤリングは保健所が行う。保健所が学校において「感染に関する」調査を行う場合には、学校や学校設置者も協力してください。
- ・校舎内の消毒については、保健所及び学校薬剤師等と連携して消毒。必ずしも専門業者を入れて施設全体を行う必要はなし。

等とし、PCR 検査についての記述はありません。

校内等の消毒について、日教組は、通常の消毒も含め、外部化を求めてきました。大きな負担となり、不安を生じさせている消毒業務を教職員に担わせないことが必要です。また、保健所や教委は、想定すらされていない PCR 検査への協力を学校・教職員に求めるべきではありません。自治体による対応の差を文科省は厚労省との連携のもと改善すべきです。

感染者が確認された際に、濃厚接触者に限らず、子ども・教職員の PCR 検査が求められています。設問 4 (5) において、希望する子ども 7.5%、希望する教職員 5.9%の PCR 検査が実施されていることから、学校において感染者が確認された場合の PCR 検査の対象拡大が必要です。

IV その他（自由記述）から

子どもたちが、楽しみにしていた行事がなくなったり縮小されたり、「新しい生活様式」が強いられている学校。感染者や濃厚接触者への差別や偏見が、「社会の縮図」として課題とされる学校。本調査では、改めて、教職員が、感染対策とともに一人ひとりの子どもによりそい、きめ細かな対応を続けていくために、教職員をはじめとする「スタッフ職」の拡充が必要とされていることが示されました。同時に、少人数学級の推進、学校や教職員の担う業務の大幅な削減とともに「スクラップ&ビルド」を原則とした長時間労働の是正が急務なこと、さらに、本調査では「換気扇の設置」を示しましたが、これまでの調査において、冷暖房設備、トイレ、手洗い場等、学校の施設・設備の整備も課題とされます。

なお、校内での感染拡大に対する不安を抱く教職員もいることから、新型コロナウイルス感染症に関するワクチン接種が、希望する教職員に優先的に実施されるよう検討されるべきです。

以上